

65才以上の高齢者が100人居ました。 その内の何人が介護認定を受けているかご存じですか？

光嶋 康一

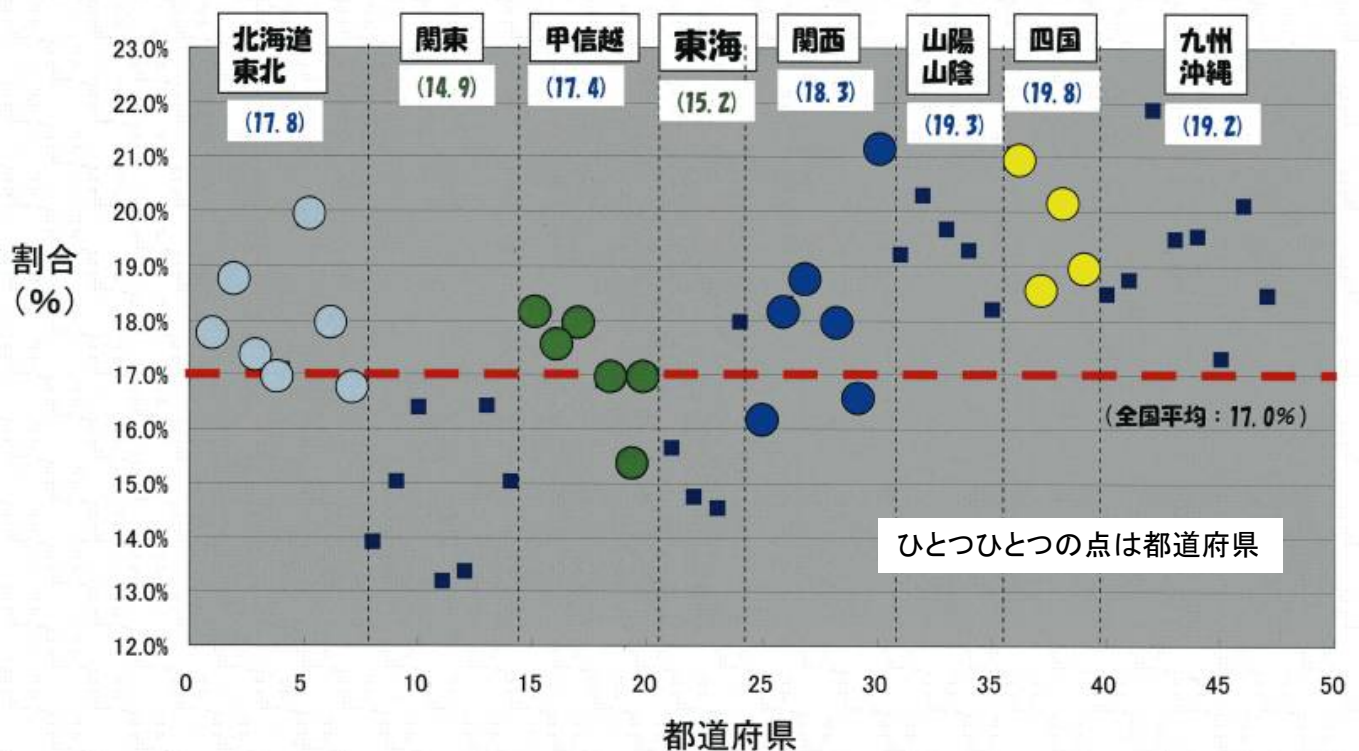
平成23年の統計では、全国平均で17人が介護認定を受けています。（要支援～要介護5まで）ところが、これはあくまでも全国の数値で、同じ65才以上の高齢者100人が居ても都道府県で随分違うことをご存じですか？

多いのは順に、長崎県21.9人、和歌山県21.2人、島根県20.3人、愛媛県20.2人です。一方、少ないのは、埼玉県13.2人、千葉県13.4人、茨城県13.9人、愛知県14.6人などがあります。最大と最小の差は、8.7人も差があります。こんなに違いがあるのです。

さらに驚くべきことに、この多い少ないは、地域間で特徴がありそうです。下記に地域ごとの介護認定の割合（%、100人の内の介護認定を受けた人数）を示します。

介護認定を受けた人の都道府県別割合

() 内の数値はその地方の平均値

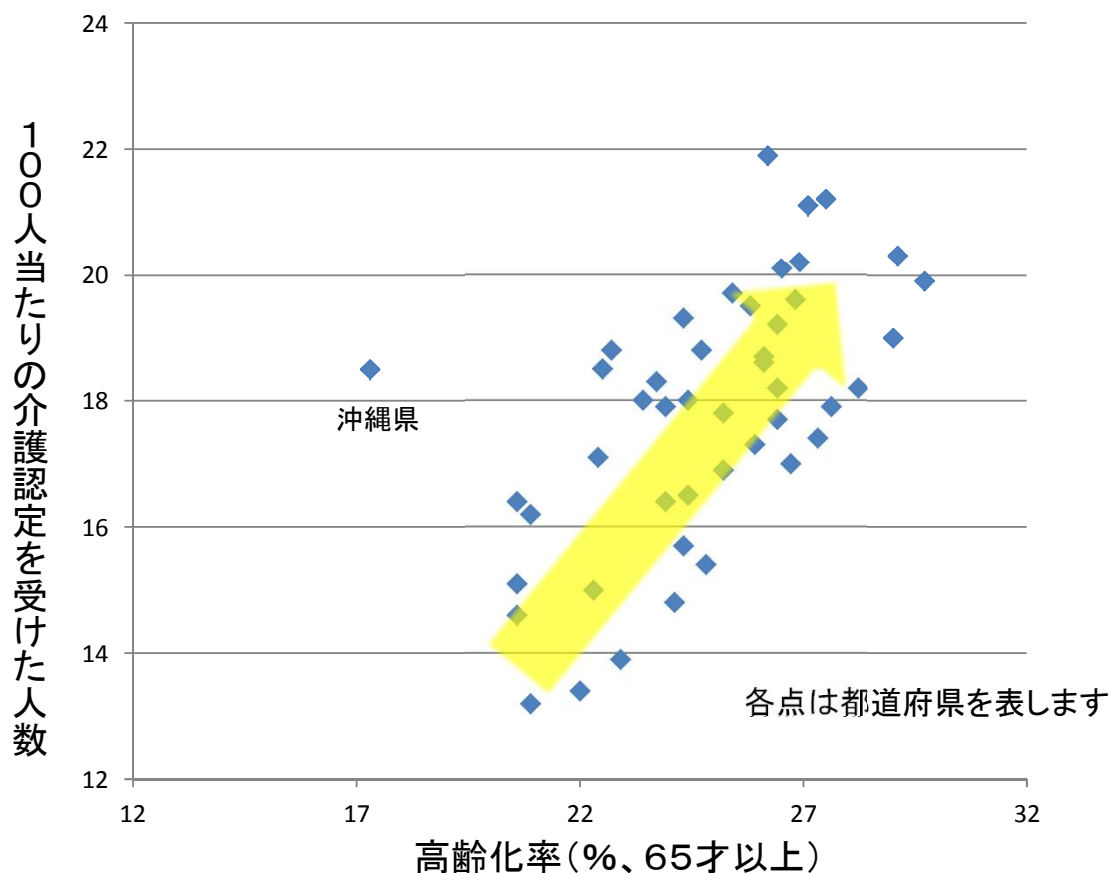


上図の横軸は、北は北海道から南は沖縄までの各都道府県を表し、図中の点が、各都道府県の100人当たりの介護認定を受けた人数を表しています。また、大きなくくりの地方名が図に書いてあります。その下のカッコ内の数字は、その地方の平均値（介護認定人数）です。この図から言えるのは、関東、東海地方は介護認定を受けた人数が少なく（元気な人が多く）、北海道、東北、西日本は、介護認定を受けた人が多いです（元気な人が相対的に少ない）。

なぜ介護認定の人数に地域間各差があるのでしょうか？

それを探るために、都道府県の高齢化率（65才以上の人の割合）と介護認定を受けた人の人数の関係を見てみました。下図にその関係図を示します。

横軸は、高齢化率（各都道府県の65才以上の人の割合）。縦軸は、100人当たりの介護認定を受けた人数です。（平成23年の資料に基づいて居ます）



この図から面白いことに、高齢化率の高い県は介護認定を受けた人の人数も多いと言うことです。飛び抜けた点が左上にひとつあります。これは沖縄県です。

沖縄は高齢化率が低い割に、介護認定を受けた人が多いです。他の地域と違った何か大きな要因があるのではないのでしょうか。

それ以外の県の傾向を見てみますと、高齢化率が高いと介護認定を受けた人の人数も多くなる傾向があります。（2つの要因には正の相関があります）

面白い傾向だと思います。

介護認定の人数に地域差がある理由を考えてみました。

外部環境としての地域社会や家庭環境など様々な要因が考えられますが、上述しました高齢化率が高い地域ほど介護認定を受ける人が多いということも事実のようです。

一概にひとつの要因を明確に決めるわけには行きませんが、高齢化率が高い地域は、おそらく高齢者の周りには若い人が、相対的に少なく同年配の人や上の人が多いということから、相対的に新しいことに接することが少ないのではないのでしょうか。

このような推論から言えることは、いつまでも元気で暮らすためには、常に新しいことや若い人と接することが大事なのではないのでしょうか。

いなほの会では、高齢者と子ども達との世代間交流にも取り組みたいと考えています。